

サミュエル・モールス

サミュエル・
モールス
Samuel
Finley Breese
Morse

1791年
ー
1872年

離れたところへ瞬時に情報を伝えることは、人類にとって長年の夢であった。その夢は、アメリカの画家で発明家のモールスによってかなえられることになる。

1832年、欧州での美術遊学を終えたモールスは、帰国する船の中でアメリカの科学者ジャクソンの実験を目にする。それは電流を流すと電磁石が鉄を引きつけるというもので、鉄が離れたりくついたりする回数を信号として送れば、簡単に正確な情報を送れるはずだと直観。1837年、電磁石を使った電信機とモールス信号を発明する。“(トン)と”(ツー)という、わずか2つの信号を順番に送信する仕組みはシンプルで洗練されており、今なお世界で使われている画期的な電信技術だ。

参考引用／集英社刊
「学習漫画 世界の伝記 別冊 世界の発明 発見事典」

モノづくりの偉人たち vol.07

ブナの巨木

日本 青森県 白神山地

1993年にユネスコ世界遺産(自然遺産)に登録された白神山地には、人の手がほとんど入っていない世界最大級のブナの原生林が分布しています。中でも「マザーツリー」と呼ばれる推定樹齢400年のブナの巨木はシンボリック的存在。じかに触れることができる幹からは、力強い生命の息吹が伝わってきます。

表紙の写真
世界の巨木
—
Tree No.07

